

□議員名：杉本 保喜

1 防災・減災対策について

論点	大阪北部地震により、通学途中の女兒が倒壊ブロックの下敷となり死亡したことから通学路の安全確保が注目された。通学路の安全確保は避難路の安全に繋がるものであるが、本市の安全確保はできているか。
回答	平成27年度から通学路交通安全プログラムを実施。各校区において交通・防犯の視点から通学路の改善希望箇所の洗い出しをやり、今年度までの対策希望箇所が205か所、その内対策済みが92か所、対策中及び対策予定箇所が21か所である。今後も安全確保に努めていく。また、児童生徒に対しても防災の面も含めて安全指導を充実させ、今後とも関係機関との連携をしていく。

論点	災害発生が繰り返される昨今、住民の速やかで適切な避難とその避難意識を持たせる手立ては早急に成されなければならない。コロナ禍で「3密」を避けた避難所の受入態勢はできているか。また、実動訓練を行う計画はあるか。
回答	昨年避難所マニュアルに感染症対策を追加して対策を取り、居住区に間隔をとることから受入可能人数の減少や発熱症状のある避難者用の別室の確保や担当職員を増員している。職員を対象とした避難所の開設訓練を実施しているが、今後も各校区での訓練も支援していきたい。また、介護施設の避難計画作成の義務化は、専門家を交えた計画の策定を考えたい。

論点	災害の規模によって他市県からの受援が必要となる場合がある。本市の他地区への支援経験に基づく受援体制はできているのか。
回答	被災地支援の経験を含め、平成30年4月に災害時受援計画を策定し、災害対策本部に受援総括班を設置した。全体業務として65業務を設定して、業務を担う担当課、担当者を決めて体制整備している。また、受援応援班を対策本部につくり、そこが統括するようなことになり、地震や津波をはじめ災害時対応を必要に応じて検討する。

## 2 「協創によるまちづくり」について

論点	スマイルプランナー制度をはじめとする市民活動の活性化によるまちづくりの目標と具体的な計画を問う。
回答	本制度開始から3年、個人で200名、団体で50の登録がある。多くの市民にまちづくりに参加していただくことが重要である。市のホームページも団体や個人の連携を考えた登録者同士の連携・情報共有の機会設定を検討し、また、FM局の活用の協議・検討も図りたい。

論点	今活動している公的市民団体をはじめ、市民団体とどのように具体的活動を進め、「スマイルシティ」としての効果を上げようとしているのか。
回答	地域の方々が主体的に物事を進めていくことができるようまちづくりに参画できる仕組みをはじめ、地域、ひと、まちの価値を創る目標から今後、市民の皆さんと地域づくりを進めていきたい。

論点	スマイルエイジングの野外版と言える具体策として、須恵健康公園に運動器具が設置されたが、他の公園やスポーツ施設の活用を含め、今後の展開策はどうか。また、多くのひとから継続使用されることが重要であり、その手立てをどう講じていくのか。
回答	市の出前講座に健康遊具の使い方教室を加え、継続使用の効果を含めたい。目標の健康寿命の延伸につながるものとして特化したスマイルエイジングパーク事業と位置付け、さらに特色のある取り組みとして年次的にもこれから考えていきたい。また、既存の遊具の更新も地元の意向も聞きながら、子供向け遊具とのバランスを取りながら計画的に進めたい。